

年 組 名前:



軽ワゴンの贈呈式に出席した米林道徳理事長（中央）  
＝富士吉田市新町2丁目

# 食料支援 広がる輪

富士吉田市を拠点に活動するNPO法人「富士の緑とフードサポート（米林道徳理事長）」が、生活困窮世帯への食料支援を始めてから1年が経過した。40年近く自然保護団体として活動してきたが、子どもの貧困の問題に触れて心を痛め、富士北麓地域で子育て世帯の支援に乗り出した。寄付の協力が増えるなど成果を上げる一方で、メンバーの高齢化や認知度不足などの課題も。メンバーは「子どもたちの助けになりたい」との思いを強くしている。（仲沢篤志）

## 富士吉田・自然保護団体活動1年

### メンバー高齢化が課題

法人は富士北麓地域の清掃や植物の保護などの活動をすると「富士の緑を育てる会」として、1985年に設立。新型コロナウイルス感染拡大によって、子どもの貧困を報じるニュースなどを見て心を痛めたメンバーが、「おなかをすかせた子どもたちやその家族を応援したい」と支援を発案し、2021年9月に組織変更。約20人のメンバーで同年12月から活動を始めた。子育て支援などの経験はなく、「何もないところからの手探りの状態（米林理事長）からスタートだった。それでもスーパーや企業からの協力は徐々に増え、家庭からの余剰食品の寄付など支援の輪は徐々に広がりは始めている。2方に1回程度、食料配布を行い、希望者は富士吉田市や西桂町など富士北麓エリアを中心に150世帯ほどになった。これまでに73世帯、9205ポのコメやパスタ、レトルト食品などを配布した。たくさんの子どもの1人で育てる母親、食べ盛りの子どもを抱え、コメの配布に喜ぶ親の姿などに接し、早川清仁理事長は「思っていたよりも深刻だった」と実感している。7日は、団体の活動に協力したいと警備業と葬祭業を行う都留市の「KBY」から軽ワゴンの寄贈があった。これまではメンバーの自家用車で回収や配布を行っていたため負担が大きかったという。米

法人は富士北麓地域の清掃や植物の保護などの活動をすると「富士の緑を育てる会」として、1985年に設立。新型コロナウイルス感染拡大によって、子どもの貧困を報じるニュースなどを見て心を痛めたメンバーが、「おなかをすかせた子どもたちやその家族を応援したい」と支援を発案し、2021年9月に組織変更。約20人のメンバーで同年12月から活動を始めた。子育て支援などの経験はなく、「何もないところからの手探りの状態（米林理事長）からスタートだった。それでもスーパーや企業からの協力は徐々に増え、家庭からの余剰食品の寄付など支援の輪は徐々に広がりは始めている。2方に1回程度、食料配布を行い、希望者は富士吉田市や西桂町など富士北麓エリアを中心に150世帯ほどになった。これまでに73世帯、9205ポのコメやパスタ、レトルト食品などを配布した。たくさんの子どもの1人で育てる母親、食べ盛りの子どもを抱え、コメの配布に喜ぶ親の姿などに接し、早川清仁理事長は「思っていたよりも深刻だった」と実感している。7日は、団体の活動に協力したいと警備業と葬祭業を行う都留市の「KBY」から軽ワゴンの寄贈があった。これまではメンバーの自家用車で回収や配布を行っていたため負担が大きかったという。米

林理事長は「これでよりスピーディーに届けられることができると喜んだ。一方、課題はメンバーの高齢化。多くは60～70代で、72歳の米林理事長も若い世代からも協力してもらえないように実績を積み重ねていかなければならない。未来を担う子どもたちの支えになりたい」と力を込める。今後は、県内の他の支援団体との連携を深めながら活動を展開していく。

(2023年2月14日付 山梨日日新聞19面)

#### 問1

富士吉田市を拠点に活動するNPO法人が、1年前から始めた支援を教えてください。

#### 問2

NPO法人は、どのような理由で支援を始めたのでしょうか。

#### 問3

都留市の企業は、NPO法人に何を寄贈しましたか。

#### 問4

NPO法人が抱える課題と、その解決策を、あなたなら、どのようにしたら良いか教えてください。

・課題: .....

・解決策: .....